

## 令和6年度第1回経営協議会議事要録

日 時 : 令和6年6月20日(木) 15:00 ~ 16:34

場 所 : 熊本大学事務局棟1階大会議室 ほか

出席者 : 小川 久雄、富澤 一仁、大谷 順、宇佐川 毅、水元 豊文、黒沼 一郎、  
平井 俊範、秋池 玲子、Oussouby Sacko、笠原 慶久、木下 統晴、倉津 純一、  
後藤 芳一、村田 信一

欠席者 : 赤木 由美、竹内 信義、原 幸代子、本松 賢

陪 席 : 宮尾 千加子、渡辺 啓子、立石 和裕、金岡 省吾、清水 聖幸、市川 聡夫、  
岸田 光代、大日方 信春、磯部 博志、尾池 雄一

### ○ 新任委員等の紹介

議長から、参考資料に基づき、新任委員等の紹介があった。

### 議 題

#### 1. 大学院社会文化科学教育部熊本大学・マサチューセッツ州立大学ボストン校紛争解決学国際連携専攻の学生募集停止及び廃止について

議長から、マサチューセッツ州立大学ボストン校における新型コロナウイルス感染症による影響や組織改編等に伴い、大学院社会文化科学教育部熊本大学・マサチューセッツ州立大学ボストン校紛争解決学国際連携専攻の学生募集の停止及び廃止について審議願いたい旨提案があった。

次いで鹿嶋社会文化科学教育部長から、資料1に基づき、内容について説明があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

#### 2. 令和5事業年度決算について

議長から、国立大学法人法に基づき、財務諸表等を文部科学大臣に提出する必要があるため、令和5事業年度熊本大学財務諸表(案)等について審議願いたい旨提案があった。

次いで黒沼理事から、資料3-1~3-4及び追加資料1-1に基づき、財務諸表(案)等の内容について説明があった後、追加資料1-2・1-3に基づき、監査結果について報告があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

なお、議長から、本件は役員会に付議する旨付言があった。

#### 3. 令和7年度概算要求事項について

議長から、令和7年度概算要求(案)について審議願いたい旨提案があった。

次いで黒沼理事から、資料5及び追加資料2・3に基づき、令和7年度概算要求において計画

している要求事項等について説明があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

なお、議長から、本件は役員会に付議する旨付言があった。

また、今後文部科学省との協議による概算要求（案）の変更等については学長一任とすることが併せて了承された。

## 報告連絡

### 1. 第4期中期目標・中期計画達成に向けた令和5年度の取組における実績報告について

富澤理事から、資料2に基づき、第4期中期目標・中期計画達成に向けた令和5年度の取組状況について報告があった。

### 2. 令和5年度資金運用報告及び令和6年度資金運用について

黒沼理事から、資料4に基づき、令和5年度資金運用結果及び令和6年度資金運用計画について報告があった。

### 3. 令和8年度学部改革について

富澤理事から、資料6に基づき、令和8年度学部改革について報告があった後、種々意見交換が行われた。

(意見交換の概要は次のとおり。◇は委員からの質問・意見、◆はそれに対する回答等)

◇ 素晴らしい取り組みである。従来、文系学部においては、どのような人材が養成されているのかが分かりづらい印象であったが、今回このような新たな学環が設置されることで、養成する人材像がより洗練され、産官学金連携や文理融合という昨今の大きな流れに即しているように思う。我々も協力をしながら本学改革を応援していきたい。

◇ 学部改革の進め方については工夫する点があるように思う。

まず、文学部の改組について、1学科に改組後、その中の専門分野を専攻するまではどのようなカリキュラムになっているのか。また、学部改組を行う上では、社会に対して強いメッセージを発信することも重要であると考えます。

共創学環（仮称）については、いわゆる分野横断型の教育はいずれの大学も中々実施に至っていなかった印象がある。連携したプログラムの実現には、それらの授業科目についても、事前に他学部と協議する必要があるように思う。また、学生の意識を改革するようなプログラムを作ることも重要ではないだろうか。

◆ 文学部改組については、1年次に様々な学問分野の基礎科目を履修し、その後の専攻分野（コース）を自分の志向に合わせて選択できるようにする。また、就職に向けてはキャリア教育の強化が必要であると考えており、デジタル社会に対応して本学科では文学とデータサイエンスを組み合わせた学修を取り入れて強みにしていきたい。

共創学環（仮称）については、連携協力学部や学内の教育研究組織等から本学環のコアとなる教員を確保する予定である。さらに、「経営」の分野を強化するため、新たにマーケティングや経営戦略に長けた教員を集めたい。また、社会実践型教育を中心に据えて、企業や自治体へのインターンシップを絡め、地域の課題やグローバルな課題に対して学生自身で解決策を提案

していくプログラムを考えている。

- ◇ ①本格的なリベラルアーツ教育は高い価値があるが、②就職実績も問われるだろう。①は一般論として反対する人は少ないと思うが、そうした高度人材の受入れに国内企業が追いついていないのではないかと。普通のやり方では、①と②は背反するのではないかと。よほど工夫すれば同時に満たせるかも知れないが。突き詰めるとこうなると思うが、どのような方針かと。
- ◆ 文学部はリベラルアーツ教育が中心となり、共創学環（仮称）は実践型教育になると想定している。現在、企業や自治体と密に連携した取り組みも行っており、学生を採用する企業側の意識も変えていきたい。現在、本学は高大連携を推進しているが、そのような大学への入口のみならず、就職に向けた出口も連動する教育プログラムを実施したい。
- ◇ 「実践」に傾斜すれば、高校生が地元農産物を商品化という次元になる。高等教育でわざわざそれでもないと思うので、環境や人口減等の社会課題の文脈を踏まえて大筋の針路を示すようなことではないかと。先の①と②の問題に通じるが、どういう戦略とするかが肝心ではないかと。
- ◆ 共創学環（仮称）では、課題の発見から解決、その後のマネジメントまで担える人材を育成したいと考えている。課題の発見、解決、マネジメントに至る過程において、その周辺の必要な知識やスキルを身に付け、地域の人々と共に取り組むことが本学環の意義である。最終的には、熊本ひいては九州の発展に貢献できる人材を育成したい。
- ◇ 外来の手法を入れるときツマミ食いと弊害が生じる。例えばジョブ型がよく言われるが、本格的に入れるなら長期のインターンシップが前提で、セットでやる必要がある。
- ◆ インターンシップについては引き続き検討していきたい。

#### 4. 令和6年度主要行事予定について

議長から、資料7に基づき、令和6年度の本学の主要行事予定について報告があった。

#### 5. 令和6年度経営協議会開催日等について

議長から、資料8に基づき、令和6年度の本会議の開催日等について報告があった。

以上

○ 次回開催：令和6年11月21日（木）

#### <配布資料>

- 参考資料 国立大学法人熊本大学経営協議会名簿 ほか
- 資料 1 熊本大学大学院社会文化科学教育部熊本大学・マサチューセッツ州立大学ボストン校紛争解決学国際連携専攻の学生募集停止及び廃止について
- 資料 2 令和5年度に係る主な取組 ほか
- 資料 3-1 財務諸表の要旨
- 資料 3-2 令和5事業年度財務諸表（案）
- 資料 3-3 令和5事業年度事業報告書（案）

- 資料 3－4 令和5事業年度決算報告書（案）
- 資料 4 令和5年度資金運用報告 ほか
- 資料 5 令和7年度熊本大学概算要求事項（案）
- 資料 6 令和8年度学部改革について
- 資料 7 令和6年度主要行事予定
- 資料 8 令和6年度経営協議会開催日等
- 追加資料 1－1 有形固定資産現在価値の推移 ほか
- 追加資料 1－2 監事の監査報告書
- 追加資料 1－3 独立監査人の監査報告書
- 追加資料 2 今後の収支の変動要因と対応について ほか
- 追加資料 3 国立大学協会声明文 ほか
- 追加資料 4 産学官連携事例集